平成29年度 第1回東海村高齢者福祉計画推進委員会議事録

日 時：平成29年5月22日（月）18：00～19：30

場 所：議会棟201・202委員会室

出席者：（委員）薄井委員長，藤澤副委員，土屋委員，櫻井委員，小野寺委員，上条委員
関田委員，吉成委員，関口委員，根本委員，阿部委員
（※訪問看護ステーション青木氏が小野瀬委員の代理として出席）

（事務局）中村福祉部長

介護福祉課 丸山課長

（介護保険室）：高橋補佐，鈴木係長，川崎主事，坂佐井主事

（高齢支援）：三浦補佐，大杉

（地域包当）：藤田補佐

福祉保険課：金田主任

健康増進課：古川保健師

（委託業者）（株）ワイズマンコンサルティング 西舘氏

欠席者：（委員） 宮部委員，小野瀬委員

配布資料：（事前配布）

資料1 介護予防・日常生活圏域ニーズ調査・在宅介護実態調査結果報告

資料2 第7期東海村高齢福祉計画・介護保険事業計画の考え方及び進め方について
（当日配布）

「フリースペースなないろ」，「認知症カフェ Village bird」，「第2回健康講演会」案内チラシ

1 開会 事務局：三浦

2 福祉部長挨拶 中村福祉部長

本日はお忙しい中，ご出席いただきまして誠にありがとうございます。

皆様におかれましては，本委員会に限らず，医療や福祉と多岐に渡って本村にご協力をいただいております，この場をお借りして改めてお礼申し上げます。

さて今回は，平成29年度の第1回目の委員会となりますが，本年度は「第6期高齢者福祉・介護保険事業計画」の最終年度であると同時に，平成30年度から平成32年度までの第7期計画策定の年度でもございます。改めてご協力をよろしくお願いいたします。

本計画では，目指す将来像として「健やかにいきいきと安心して暮らせるまち」を掲げておりますが，この将来像を達成する上では，医療・介護・介護予防・住まい・日常生活が一体となった「地域包括ケアシステム」の構築が大前提と考えます。

平成29年度の村長ミッションのひとつに「病院と連携した地域包括ケアシステムの具体化」が挙げられており，介護という視点から医療と介護を含めた視点に切り替えての施策展開が求められるところでございますので，関係機関としっかりと連携を図っていく所存であります。

今後「地域包括ケアシステム」の構築に向けて取組んで参りたいと思っておりますので、皆様方の益々のご協力をよろしくお願いいたします。

3 委員長挨拶 薄井委員長

こんばんは。本日はお暑い中お集まりいただきまして、ありがとうございます。第6期の高齢者福祉計画は3年計画で、今年が最終年度ということになっております。本来は今年1年かけてじっくり第6期計画の反省・分析を行ない、その結果を次期の計画にきちんとフィードバックしていくべきですが、もう7期の計画に入らなくてはならない状況です。

ですので、この場を第6期の反省を十分に生かす場のひとつとするため、皆様には暑い議論をお願いいたします。

4 委員紹介及び事務局紹介（委員名簿参照） 事務局：三浦

※変更等のあった委員及び事務局員の紹介

<委員>

〔辞任〕小林美雪（JA常陸デサービスセンターふれあいセンター長）※異動により辞任

<事務局>※本年度から介護保険室から高齢支援担当に事務局変更

〔新任〕三浦充宏（介護福祉課高齢支援担当）※人事異動による

〔 〃 〕大杉美香（介護福祉課高齢支援担当）※人事異動による

〔 〃 〕坂本美由紀（介護福祉課高齢支援担当）※本日欠席

<7期計画策定業務委託業者>

㈱ワイズマンコンサルティング 西舘氏

5 議題 議事進行：薄井委員長

(1) 介護予防・日常生活圏域ニーズ調査・在宅介護実態調査結果報告について 事務局：大杉

〔説明概要〕

- 「介護予防・日常生活圏域ニーズ調査」と「在宅介護実態調査」の共通事項について
 - ・対象者、送付数、回収率等については、報告書P3・4に掲載のとおり。
 - ・在宅介護実態調査の、αは介護保険の認定調査時における対面による実地調査。21名実施。
- 「介護予防・日常生活圏域ニーズ調査」について事務局が目とした点
 - ・P46【介護予防事業に参加する上で妨げやネックになっていること】で、「事業のことを知らない」が35.8%であったことから、さらなる事業の周知が必要であると思われる。
 - ・同質問で、「交通手段がない」が28.2%。またP53【在宅で生活続けるために必要な支援・サービス】の項目でも、「移送サービスが必要」とした人が36.4%であることから、高齢者の移動手段についてニーズがあり、課題でもある。公共交通、高齢者の免許返納の問題もあり、検討していく必要がある。
 - ・P48【認知症予防のための取り組み】で、「認知症予防のために、具体的な取り組みを実践していますか」との問いに、「時々気をつけているが継続的でない」「現在はしていないが、近いうちにしようと思う」「現在していないし、しようとも思わない」の合計が61.6%であることから、継続して実践している人が少ないため、継続した実践につながる取り組みが必要と考えられる。
 - ・P49【地域包括支援センターで認知症相談を受けられること】で半数の人がなごみで相談を受けられることを知らない。また、【現在、一般の高齢向けに東海村が行っている認知症

予防教室を知っているか】で66.4%の人が認知症予防教室について知らないという結果であった。このことから、予防という観点では健康なうちにアプローチが必要であるが、アンケートの自由意見でも、「アンケート項目について、まだ具体的に自分のこととして考えたことがない」という回答がいくつかあったように、一般の（健康な）高齢者に対してはまだ浸透していないと思われる。

- P56【将来介護が必要となったとき、どこで生活したいと考えますか】で「自宅で生活したい」と答えた人が63.5%。【在宅で暮らし続けるために特に重要なこと】で、往診してくれる医療機関が57.6%と1位。このことから、在宅医療への対応、そして医療と介護の連携について具体的な取り組みが必要と思われる。
- P61～「リスク分析」について、リスク分析は、各問（項目）で一定の要件にチェックがあった方をリスク有と判定しているものである。本村でリスクの高い順としては、①認知症、②うつ、③転倒、④社会性の低下の順であり、これは今後予防事業を計画する上で反映すべき点になる。
- 「在宅介護調査」について事務局で注目した点
- P86【主な介護者について】子が最も多く41%、次に配偶者で33.6%。介護者の性別は女性が68.2%で男性の2倍以上。そして、介護者の年齢は60代が34.1%で一番多いことがわかる。
- P98【村に力を入れて欲しい高齢者保健福祉施策】で「在宅で介護している方への支援」が38.7%。また、P60「介護予防・日常生活圏域ニーズ調査」においても、【村に力を入れて欲しい高齢者保健福祉施策】で「在宅で介護している方への支援」が46.3%。このことから、介護者への支援が求められていることがわかる。
- P96【特別養護老人ホームに入所したいですか】で「いいえ」が29.9%。またその理由は、「住み慣れた家で暮らしたいため」が69.5%。
- P97入所したいと答えた方に【その理由】を質問したところ、「家族に負担をかけたくない」、「介護者がいるが高齢や障害により介護が困難」、「介護者がいるが、就業等の理由により介護が困難」が上位を占める。
- 住み慣れた在宅での生活を望んでいる人が多く、入所を希望すると答えた人であっても、積極的な理由ではなく、家庭の事情によりやむを得ず入所しようと考えていることが伺える。
- 今後、「介護予防・日常生活圏域ニーズ調査」については、厚生労働省の「見える化システム」に結果を入力する。「在宅介護実態調査」については、厚生労働省のソフトにより分析する。それらの結果や村のサービスの実数や高齢化率等を踏まえて本村の結果分析を進めるとともに、人口規模や構成などが類似する市町村との比較を行い、今後の計画に必要な資料をお示ししたい。

<質疑応答・意見>

委員長） 今回資料（アンケート結果）が委員の手元に届いたのが直前だったのと、データの分量が多いため、皆様全てをじっくり見てくる時間がなかったと思いますが、何か御意見ございましたらお願いいたします。

委員） P48で「あなたは認知症予防のために、具体的な取り組みを実践していますか」との問いに「実践している」と答えた方についてですが、この方々は系統立てた認知症のプログラムが提案されて、それに基いて実践している方でしょうか。

事務局） 系統立てた認知症プログラムをやった方ということではなく、その次の問いに対する回答にあるように「適度な運動」や「バランスの良い食事」などを実践している方

も「実践している」という回答に含まれることとなります。

委員長) 「具体的な実践内容」の問いも、示された選択肢から該当するものを選択する方式なので、「具体的な実践内容」で当てはまるものがあつた方は「実践している」と回答することになりますよね。

委員) アンケートの自由記述部分について、どのように今後生かしていくこと、反映させていくことを考えていますか。

事務局) アンケートは村民の生の声が出ており、貴重な意見と考えています。予算の面等があるので全てが実現できるわけではありませんが、高齢者の方が住みよいまちをつくっていくために1つでも2つでも施策に反映していきたいと考えます。

委員) この「自由記述まとめ」は村民に公表する予定ですか。

事務局) 調査結果をまとめたものは公表する予定ですが、自由記述を含め全ての内容を詳細に公表することは考えておりません。

委員長) これだけ一生懸命回答していただいたというのは、アンケートとしては成功していると思います。自由記述については、項目ごとに分類してあるので、基本的な質問項目と自由記述の同様の項目を比べながら重み付けしてくといった活用ができると思われます。

委員) P70、社会的役割が低下すると認知症につながるという話も聞きます。今後は元気な高齢者が高齢者の面倒をみることになるので、高齢者であってもできることはやろうという道筋をつけていく取り組みが必要と思います。

委員長) そもそも、この質問項目だけで社会的役割の低下を見ていくのは難しい気もしますね。アンケートの解析の仕方が難しいと思います。

P66で「物忘れが多いと感じますか」という問いがあります。私も物忘れが多いと感じていますので、これで認知機能の低下となると、辛口ナリスク判定という気がします。辛口で広めに拾い上げるということであれば良いと思いますが。

委員) 在宅医療についてニーズが増えている気がします。しかし、アンケート結果から、在宅医療についてPRが足りないように見受けられました。独居の方や高齢世帯の方が増加していますので、それらの方々が地域で生きやすいように考えていかなければなりませんし、安全に暮らしていけるよう周囲の理解が必要だと思います。また、介護負担が減らせれば在宅で暮らしていけるということもありましたので、介護負担を減らしていくためにはどうしていけば良いかという具体策がもう少し出てくれば良いと思いました。

在宅医療については実際利用する段階にならないとあまり興味を持っていただけない状況があります。早めに知っていただいて、寝たきりになる前に介入できればと思っています。

委員長) 医療と介護の連携という話が先ほどありましたが、東海病院でも細々と在宅医療をやっています。本来は在宅医療は患者さんを家で診るだけでなく、その方の全体をカバーする、全人的にみていくことの延長線上にあるものだと思います。例えばその方に治療が必要かだけでなく、家族関係で困っていないかとか、地域の中で孤立してしまっていないかも含めてみていくのが在宅医療だと思います。なので、増えることは良いのですが、医者不足ですので中々厳しいところもあると思います。今後知ってもらって活用してもらう中で、そういったことを目指す医者が増えていけば良いと思います。

委員) P61, リスク分析について, 若い人の方がパーセントは低いのですが, 絶対数は若い人の方が多いと思います。なので, 分母は何人位いるのか教えてほしいです。

事務局) P8で年齢と性別がクロス集計されています。あくまでアンケートサンプルなので絶対数というのは掲載していないところです。

委員長) 先ほどの委員のご質問の趣旨としては, 絶対数の評価も見たほうが良いのではないかと。実態を見るためにはN(分母)も大事ではないかということですよね。

実際の年齢構成比も年齢が高くなるほど割合が低くなりますし, アンケート回答上の年齢構成比でも年齢が高くなるほど低くなっています。ですので, N数で解析するのも良いと思ったのですが。いかがでしょうか。

委託者担当者) 極端に少ない数字がでないようにサンプリングはしているのですが。

委員) 例えば, 85歳以上は約13%位なので, 女性ではその75%がリスク有といってもNが少ないので, 絶対数は少ないのではないのでしょうか。ただ年齢が上がればリスクが増えますということではなく, 絶対数としてこのリスクがある方がこれだけいますよ。というのを出したほうが良いと思いました。

委託者担当者) 該当者数のNを出すためには2つ考え方がありまして, 今回の分析ではN(母数)と率を掛ける方法をとりました。もうひとつは全体の人口バランスを考えて掛ける方法です。あくまで率を出すためのサンプリングでした。

委員長) アンケート回答者数は85歳以上は約13%なので, 75%といっても, 80~84歳の人数と近い数字になるのではないかと考えていましたが, 今のご説明を聞きますとそうではなく, 人口構成比は元々のこの割合ではないので, 今回のサンプル数を掛けるのか母数を掛けるのかでだいぶ変わってくるということですね。ということになると, なおさら両方見たいですね。そうすれば今回のサンプリングの妥当性まで判断できますから。

事務局) 追加で今の掛け合わせもして, 皆様にお示ししたいと思います。

委員) P63, 男性の閉じこもりがとても少ない印象です。色々な場面で, 男性はあまり出かけている感じではないので, この数値は意外だったのですが, どこに出かけているかまでわかりますか。

事務局) どちらに出かけているまでは調査しておらず, 把握できていません。

委員長) あくまでイメージですが, もう少し閉じこもっている方はいそうな気がしますよね。また, 85歳以上で急に増えているのも違和感はありますが, あとは自由意見で捨るか, 現場の意見の声を参考にして解析されると良いと思いました。

事務局) 推測ですが, 自動車の免許の保有者が男性が多いこともありますので, 家族で買い物など男性が運転して出かけるといったことも関係するかもしれません。

委員長) 例えば免許の返納率なども含めて事務局で分析しても良いかもしれませんね。逆に免許を持っていることでのリスクもあると思いますし。

委員) ボランティアで男性の出席率が低いと感じませんか。

委員) 感じます。どこの集まりにいても女性が7割位。閉じこもりという定義を深刻に考えているのではないかという気がします。

委員長) アンケートの項目としては, 「あなたは閉じこもりですか」と聞いているのではなく, 「週に1回以上外出しますか」と質問していて, その評価をしているわけですよね。大変かもしれませんが事務局で分析をお願いします。

委員) 昨年の11月頃に村社協から民生委員・児童委員に調査依頼がありました。地域での

支援が困難な方についての調査で閉じこもりも多くありまして、そのようなデータも取り入れてもらうと良いと思います。

委員長) 貴重な御意見です。ぜひ事務局では参考にさせていただきたい。

委員) 自由記述の中で、誤字・脱字が見受けられます。今一度確認をお願いしたいです。

事務局) もう一度見直したいと思います。

(2) 第7期東海村高齢者福祉・介護保険事業計画の考え方及び進め方について 事務局：三浦 〔説明概要〕

資料2を使用し、第7期計画の策定に向けた計画のイメージ、今後のスケジュール等について事務局より説明。

事務局) 策定方法につきましては、資料記載のほか、先ほど委員から御意見いただいた社協データの活用、第3期の地域福祉計画などとも摺り合わせをしながら進めていきたいと思っています。

<質疑応答・意見>

委員長) 第6期の反省に基きこれからやっていかななくてはならないことは間違いないと思います。法律を境に第5期と第6期ではドラスティックに変わっています。ですから、第6期の計画がベースにあって、平成37年に向けて地域包括ケアの整備をどんどんやっていこうというのが国及び村の施策の根幹ですので、6期は基本中の基本です。これを十分分析しないと第7期のきちんとした計画ができないということは当初から感じております。何かこの件について御意見ご質問はありますか。

※特に意見なし。

(3) その他

①「フリースペースなないろ」について

事務局) 「フリースペースなないろ」をなごみ総合支援センター2階にオープンしました。障がいの有無にかかわらず気楽に誰でも集える場所となっております。当事者、その家族、地域の方、誰でも気軽に立ち寄っていただきたい。「なないろ」という名称は、障がい者の事業所に公募して決めました。また、裏面にオープンセレモニーの案内がありますのでご参照ください。

②「認知所カフェ Village bird」について

事務局) 「認知症カフェ」ですが今年度新規事業として始めまして、認知所の人やその家族、地域住民や専門スタッフが集い、互いに交流し情報交換することを目的としています。日程は毎月第3水曜で、詳細はチラシ裏面をご覧ください。場所はグループホームメジロ苑です。参加費はお茶代として100円いただいております。専門職による相談も随時受ける体制がございまして、認知症サポーターの方もボランティア活動の一環として協力いただいております。ぜひお立ち寄りください。

③「第2回健康講演会」について

委員長) 東海病院では、広く病院が開かれ、敷居が高くないところであることをアピールするため健康講座を開催しています。今回のテーマは「家庭でできる介護について」です。第1部は心のケア・第2部は身体のケアについてです。今後第3回・第4回と開催することを考えておりますので、皆様ご参加お願いいたします。

委員) どれをみてもPR不足という気がします。それぞれどのようなPRをしているのか教えていただきたい。

委員長) 健康講演会については、以前は村広報に掲載したりもしましたが、今回は会場が広くないので、逆にあんまり多く来てもらっても入れなくなってしまうところがあるので、あまり大々的にはPRはしていません。今後徐々に規模・会場を大きくした際には役場や東海駅にチラシを貼らせてもらったり、広報とうかいに掲載してもらったりと考えています。村は全般的にアピール不足ということがあるとは思いますがね。

事務局) 「認知症カフェ」については民生委員定例会、ケアマネージャーの連絡会、また広報とうかい等で事業案内を行なっています。今後も毎月の開催日程等について広報とうかいでもPRを考えています。今後は1回来た方に次回また来てもらえるような取り組みをしていきたいと考えております。

委員長) その他何かございますか。無いようでしたら、以上で終了としたいと思います。

6 閉会 事務局：三浦

事務局) 今後も事務局一同一層邁進して参りますので、委員の皆様ご協力をよろしくお願いいたします。本日はありがとうございました。